

3月21日は バルブの日。

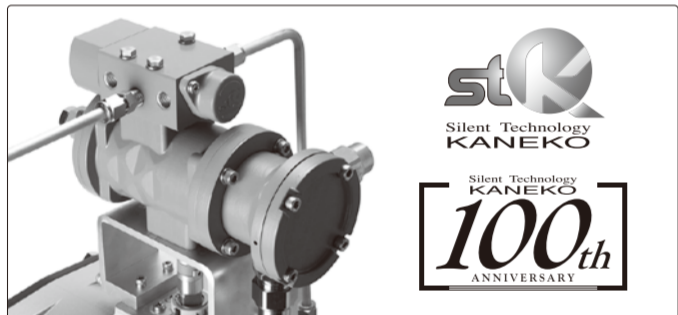
バルブはサステナブルな社会と テクノロジーが開く未来を支えています。

私たちの生活の中で一番身近なバルブは水道の蛇口。
流れを制御するバルブは、安全性や効率化の機能を向上させながら
工場やビルの中、自動車や船、宇宙ロケットの中など、あらゆる場所でその最新技術が生かされています。
明日、3月21日は日本バルブ工業会が制定した「バルブの日」。
サステナブルな社会とテクノロジーが開く未来を支えるバルブ業界の将来について、同会の中村善典会長に話を聞きました。



オンオフバルブマネージャ APOSA

オンオフバルブマネージャ APOSAは、オンオフバルブ用途の空気圧駆動アクチュエータを操作するためのスマートデバイスです。オンオフバルブを制御する主機能に診断、通信機能を追加することにより、オンオフバルブのリモート診断・監視をオールインワンで行うことが可能です。



金子産業株式会社 | TEL:03-3455-1411
URL: <http://www.kaneko.co.jp/>

アジアの発展に貢献するために
技術と人の流動化を目指す

日本バルブ工業会 会長
中村善典氏



社会に欠かせないバルブは、北米、ドイツやイタリアが主導する欧州、日本がリードするアジアで発展してきました。40億人を超える人口を抱えるアジア市場を狙い、いま三大商圏からバルブメーカーの参入が激しくなっていますが、日本のバルブ業界にはアドバンテージがあると感じています。

この数年、日本のバルブメーカーの多くはアジアの若者たちの力を借りて少子高齢化からくる人材不足を解消しようとしてきました。アジアの若者たちにとって、厳しい職人の世界は驚くことも多かったと思います。技術の向上を、真摯に追求する匠(たくみ)たちの姿勢や、改良を続ける技術者たちの熱意が彼らに伝わっていることを実感しています。

日本のバルブメーカーは社会のあらゆる課題に寄り添いながら、技術の改良・向上でそれを解決に導いてきました。例えば、様々なインフラを支えるバルブの安全を担保するために、匠や技術者たちは故障や消耗の事前予知にも取り組んでいます。

日本のバルブ産業がアジアの人々の生活を支えるために、また宇宙ロケットなどの最新テクノロジーの世界でさらに活躍するために必要なことは、各社で活躍する「究極の匠たち」の経験値やスキルを業界全体のために生かすことです。その経験値や技術をデータ化などで「見える化」することもその方法の一つかもしれません。

一方で、人の流動化に真剣に取り組むことも重要です。終身雇用がゆらぐいま、技術者が本場に生かされる場所で匠たちが存分に働ける環境づくりを業界全体で検討する時期に差し掛かっています。業界内外の様々な技術を持つ企業とのコラボレーションも新たな市場の創出につながるはずで、国内だけにとどまらず、アジア地域にどのように技術を広めていくか、といったことも考えていく必要があります。

いつの時代も新たな未来は、そこで活躍する若者たちが選択するものです。181社が名を連ねる当工業会も若い次代の社長たちが活躍し始めています。サステナブルな社会やテクノロジーで未来を切り開こうと夢見る若い経営者や技術者たちが積極的にコミュニケーションを図り、会員企業が「丸」となっていれば、業界が「丸」となっていれば、業界づくりを目指していきます。



株式会社 キッツ

千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
URL: <https://www.kitz.co.jp/>

長坂工場 山梨県北杜市長坂町長坂上条2040
伊那工場 長野県伊那市東春近7130
茅野工場 長野県茅野市金沢5125

KITZ Group

- 東洋バルブ株式会社
- 株式会社 清水合金製作所
- 株式会社 キッツエスシーティー
- 三吉バルブ株式会社
- 株式会社 キッツエンジニアリングサービス
- 株式会社 キッツマイクロフィルター
- 株式会社 キッツメタルワークス
- 他(全37社)

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド「KITZ」のシンボルです。



バルブでつなぐ先は、未来。

KITZ